

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

第2学年国語科学習指導案

単元名 ようすをくわしく書こう（仮） ～「2年3組、〇〇の思い出ブック」を作ろう～

学習材名 児童が書いた日記
「ことばノート」

日 時：令和6年2月16日(金)5校時
児 童：練馬区立向山小学校 第2学年3組 27名
指導者：練馬区立向山小学校 主任教諭 岡崎 智子

1 単元の目標

- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
〔知識及び技能〕(1)ア
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア)	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、4月から学校での出来事を中心に日記を書いている。年度当初、書く内容が分からないため、なかなか書き始められなかった児童も、経験を重ねるうちに自分で題材を見付けて書けるようになってきた。書き溜めた日記の中から気に入ったものを毎月一つ選び、清書して掲示する活動も継続してきた。また、国語科の学習を中心として、自分が気になった、いいなと感じたなど大切にしたい言葉を「ことばノート」に書き残していくことも日記と並行して進めている。（年間の実践記録は別紙資料参照）

本単元を行うにあたり、国語科の学習や書くことの学習に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりである。

質問	児童の回答	人数(割合※小数第1位四捨五入)
①国語の学習は好きですか。 (選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	16名(61%) 7名(27%) 2名(8%) 1名(4%)
②文章を書くことは好きですか。(選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	14名(54%) 8名(30%) 2名(8%) 2名(8%)
③文章を書くことは得意ですか。(選択式)	・得意 ・どちらかといえば得意 ・どちらかといえば得意ではない ・得意ではない	10名(38%) 10名(38%) 3名(12%) 3名(12%)
④文章を書くときにできるようになってきたことは何ですか。(自由記述)	・長く書く 9名 ・句読点を書く 3名 ・様子が分かるように書く 2名 ・楽しいこと思い出せる 1名 ・どこに書くか、どうやったら分かりやすいか	・会話を使う 8名 ・詳しく書く 2名 ・工夫を入れる 1名 ・想像力が上がった 1名 1名
⑤文章を書くときに気を付けていることは何ですか。(自由記述)	・会話を入れる 6名 ・文字を丁寧に書く 3名 ・詳しく書く 1名 ・ような、みたいなを使う 1名 ・言葉を正しく使う 1名	・句読点を使う 5名 ・いつ、どこでを書く 2名 ・思ったことを書く 1名 ・漢字を使う 1名
⑥文章を書くときに、困ることや難しいことはありますか。(選択式)	・ある ・ない	7名(27%) 19名(73%)
⑦文章を書くときに、困ることや難しいことは何ですか。(自由記述)	6名回答 ・いつなどがうまく書けるか ・誰がしたことを忘れたとき ・会話をどう入れたらおもしろいか ・会話が難しいときがある ・何を書けばよいか分からなくなる ・詳しく書くとき	

意識調査の結果を見ると、88%の児童が国語科の学習を肯定的に捉えている。文章を書くことに対しても、84%の児童が肯定的に捉えていることが分かる。

④の「文章を書くときにできるようになってきたことは何ですか。」に対しては、「長く書けるようになった」「会話を入れられるようになった」と答えた児童が多かった。複数の内容を記述している児童もあり、書くことに対する自分の成長を自覚していることが伺える。⑤の「文章を書くときに気を付けていることは何ですか。」に対しては、「会話を入れる」「句読点を使う」と答えた児童が多かった。④と⑤の結果から、文章中に会話を入れることは、定着してきたことが分かる。また、⑤の回答には、児童の気付きを基に作成した「2年3組、作文のこつ」の内容が含まれており、文章を書くときに意識するとよいことが定着してきていることも伺える。

しかし、④で「様子が分かるように書く」ことができるようになったと答えた児童は1名、「詳しく書く」ことができるようになったと答えた児童は2名、⑤で「詳しく書く」「ような、みたいなを使う」ことに気を付けていると答えた児童は、各1名ずつであった。また、⑦の「文章を書くときに、困ることや難しいことは何ですか。」の回答でも、詳しく書くことへの課題を感じている児童は1名であった。

以上のような結果から、本学級の児童は、書くことに対して肯定的に捉えており会話を入れようという意識は定着してきたものの、様子を詳しく書くことへの意識はそれ程高くないということが分かった。本単元では、言葉や表現を考えて様子を詳しく書くことで、読んだ際にその時の様子がより詳しく伝わる文章になるのだということを実感し、文章を書くときに様子を詳しく書いてみようという意識を高めるようにしていきたい。

(2) 学習材について(学習材観)

①題材

本単元では、2月の学校生活の中での出来事を題材とする。体育科の長縄跳びや図工科の造形活動、休み時間や給食など、学校生活の出来事を題材とすることで、友達同士で読み合ったり対話したりする際に、そのときのことを思い出したり様子を詳しく伝える言葉や表現を出し合ったりすることができる。

2月になってから書き溜めた日記の中から自分の「思い出ブック」に載せたい題材を選び、より詳しい文章にするために付け足す言葉や表現を考えたり選んだりする中で、言葉の意味や表現の効果を比べることもできると考えた。

②様子を詳しくする言葉や表現

2年生で活用できるようにしたい様子を詳しくする言葉や表現は、以下の表の中の1～6である。日記や「ことばノート」に取り組む中で7や8に着目する児童が現れることも想定している。

	言葉や表現	具体例	指導時期
1	思ったこと	～と思いました。～でうれしかった（楽しかった／悲しかった／悔しかった など）です。（理由＋気持ち）	1年生
2	諸感覚で感じたこと	色は…。形は…。大きさは…。においは…。味は…。 ～という音が聞こえました。触ってみると…。	2年生6月
3	順序	まず、次に、その次に、最後に…。	2年生5月
4	会話	〇〇さんが、「 」と言いました。	1年生
5	比喻	～のような、～みたいな	2年生7月
6	オノマトペ	ギザギザ、もこもこ、しわしわ、トントン	2年生11月
7	程度	～ぐらい ～ほど	日記
8	慣用表現	目を丸くする、目が飛び出る、天にも昇るような	ことばノート

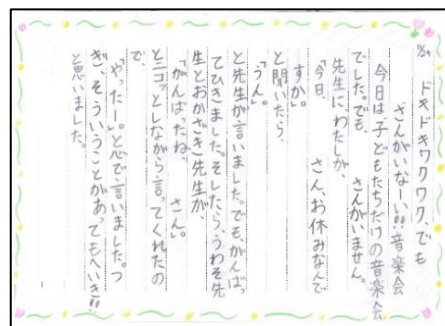
本単元で着目させたい様子を詳しく表す言葉や表現は、比喻やオノマトペである。児童はこれまでの「読むこと」の学習の中で、たくさんの比喻やオノマトペに出合っている。しかし、文章を書く際にそれらを使うとよい文章になるという意識や自分も文章の中でそれらを使ってみたいという意識はあるものの、日記の中で日常的に使用している児童はそれほど多くない。比喻やオノマトペを使うことで、様子をより生き生きと表すことができるという言葉や表現のよさを改めて感じ、使用してみようという思いを高めていきたい。

③「2年3組、〇〇の思い出ブック」

「2年3組、〇〇の思い出ブック」は、毎月の日記の中から一番心に残る出来事を選んで清書し、一冊にまとめた個人文集である。「〇〇」には、自分の名前が入る。2年3組での思い出が詰まった自分だけの本にしたいという児童の願いが込められている。「思い出ブック」が完成したら読み合って感想を送り合うという計画を立てた。

読むことで「自分自身の成長を実感する」「2年生での出来事を思い出す」「そのときの頑張りを思い出し、さらに他のことも頑張ろう」という思いを抱くことができる「思い出ブック」作りを目指す。

また、児童は、他のクラスの友達や家族にも読んでもらい、自分の思い出を知ってほしいという願いももっている。そのためには、体験していない人が読んで分かるように出来事の様子を詳しく書くことが必要となる。



「〇月のできごと」として定期的に120字～250字（低学年用原稿用紙1枚）程度の文章を書くこととし、児童の実態に合わせて指導内容を決め、段階的に指導している。

④日記

その日の学校生活での出来事を中心に、給食後から下校時までに時間を見付けて書くようにしている。4月から取り組みを始め、継続して指導してきている。

その月に書いた日記の中から「〇月のできごと」として残したいものを選び読み返しながらか書いたり、互いにアドバイスをし合ったりする。読み返すことで、「会話が入っているものを選ぶ」「今でも思い出せるような一番の出来事はどれかな」などと自分の書いたものを振り返り、文章のよさを自覚することができる。また、「ここに付け加えをしてみようかな」「この言葉を使ってみようかな」などとよりよくしたいところを見付けるなど、自己の課題を意識することもできる。

日記を書くためには、自分の生活を意識的に見ていくことが必要となる。一日の終わりに日記を書くことで自分の生活を振り返ったり、経験したことや自分の思いを言語化したりする習慣を付けることができる。

また、日記を紹介することで、友達の文章中にある良い表現に出会い、自分も使ってみたいという思いをもつことも期待できる。さらに、読み返すことで、「忘れていたことを想起できる」「その時に戻ったような気持ちになる」などの書いて残すことのよさを感じたり、書くことに関する自分の成長を自覚したりすることができるという効果もある。継続することで、個々のペースで着実に「書くこと」の力を積み上げていく

ことを目指す。

⑤「ことばノート」「ことばカード」

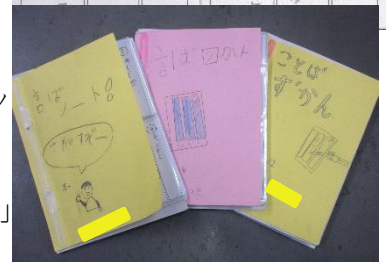
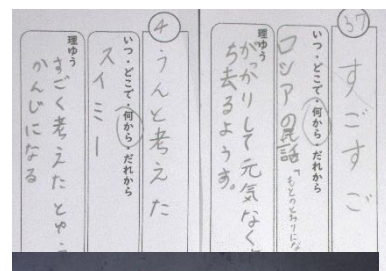
「ことばカード」は、児童が気になった言葉や使ってみたい言葉を書き溜めていくカードである。見つけた「言葉」「どこでその言葉と出合ったのか」「感じたこと」などの記録から始め、継続して取り組む中で「使い方」や「意味」なども記録する児童も現れ始めている。

「ことばノート」は、「ことばカード」をA5サイズのポケットファイルに入れ自由に書ける用紙や言葉の学習をした際の板書の写真等もはさんで、ノート形式にしたものである。国語科の学習の中だけでなく他教科や日常生活の中で見つけた言葉も書くようにし、自分だけの言葉のノート作りを目指す。

継続する中で「ことばノート」に書き溜めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、集めた言葉を表現に活用することも目指している。「ことばノート」の取り組みを通して、日常生活の中で言葉を意識する習慣を育てるとともに、児童の語彙を豊かにすることができると考えた。

本単元においても自分が大切にしたいと感じた言葉や表現を「ことばノート」に書き溜め、文章を書くときに活用できるように促していく。

「ことばカード」



「ことばノート」

(3) 単元について (単元観)

①帯単元における本単元の位置付け

本学級では、書きたいことを明確にし、様子を詳しく書く力を高めていけるよう、「2年3組〇〇の『思い出ブック』を作ろう」という帯単元に取り組んでいる。学校生活の出来事を文章で書き、2年生の思い出を本にするという見通しのもと、以下に示す5つの段階(まとめ)で取り組む。

*児童の中に、書き溜めたものをまとめたいという思いが生まれたのは3学期の始め

「2年3組〇〇の思い出ブック」を作ろう (全27時間)					
時期	4～7月	9～11月	12月	1・2月(本単元)	3月
小単元名(時数)	たのしかったことを書こう (全1時間×4)	ようすをくわしく書こう① (全1時間×3)	文しょうを読みかえそう (全3時間)	ようすをくわしく書こう② (全5時間×2)	一番の思い出をえらんで書こう (全4時間)
学習活動	経験を思い出して書く。	様子を表す言葉や表現について考える。	書いたものを読み返し推敲することのよさを理解する。	書いたものを読み返し、より様子がよく分かる文章にする。	一年間の学校生活を振り返り、一番心に残っていることを書く。
常時活動	日記	ことばノート			

帯単元の学習を支えているのは、常時活動の日記と「ことばノート」の取り組みである。常時活動と小単元とを往還しながら学習を進め、伝えたいことを言葉や表現を選んで書こうとする態度を育てていく。

常時活動	取り組みの意図
日記	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の出来事の中から書きたい題材を選んで書く。継続して取り組むことで、書きたい内容を見付けることや文章を書くことに慣れる。 段階を追って計画的に指導し、表現の種類を広げて様子を詳しく書けるようにする。 児童の書いた文章の中からよい表現を取り上げて学級全体に紹介したり、互いに読み合わせてよさに気付かせたりする学習材とする。 各小単元での学習を日常化する場として、学んだことを「生かす」ことができているか変容を見取る。 児童が書く力が伸びたことを自覚したり課題を見付けたりするための学習材となる。
「ことばカード」 ↓ 「ことばノート」	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の学習を中心として、日常生活で出合った気になった言葉や使ってみたい言葉を「ことばカード」に書き溜めるようにすることで、言葉を意識して生活する習慣を付けるとともに、児童の語彙を豊かにする。 「ことばノート」を見返すことで、自分の集めた言葉を振り返り気に入った表現を選んだり使用してみたい言葉を選んだりする。 「ことばノート」に書き溜めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、集めた言葉を表現に活用する。

本単元は4つめの段階(まとめ)に位置する小単元であり、書いたものを読み返し、様子を詳しく伝えるためにはどのような言葉や表現を使って書いたらよいのかを考え、言葉や表現の幅を広げていくことを目的とした学習である。

本単元終了後、自分が伝えたいことに合った言葉や表現を探したり、どの言葉を使おうかと考えながら書

こうとしたりする姿を期待する。

②単元構成

単元全体を「出合う」「親しむ」「生かす」の三つの段階で構成した。

【出合う】「思い出ブックに入れたい日記を選び学習課題を設定する。学習計画や単元名を考え、見通しをもつ。
 【親しむ】読み返して、そのときの様子がより詳しく伝わるようにびったりな言葉を加えて文章を書く。
 【生かす】学習を振り返り、様子を詳しく伝える言葉や表現の効果について考える。

「出合う」段階では、2月のページに残したい出来事を考えて日記を選ぶ。また、一人一人がどんな文章で伝えたいのかを考える。個別の課題が立てられたところで個々の課題を全体で共有し、読み返したときに様子が詳しく思い出することができるように書きたいという思いを高めて、学習課題「ようすをくわしく書こう(仮)」を設定する。

「親しむ」段階では、様子を詳しく伝えるために、どんな言葉や表現を付け加えるとよいのかを考える。個人でじっくり考えたり友達と相談したりしながら、様子を詳しく表すにはどんな言葉や表現を付け加えて書いたらよいのかを考え、意見を出し合う。言葉や表現によって伝わる様子が少しずつ違ってくことなどを確かめながら、様子を詳しく表す言葉や表現の効果全体を確認する。その後、児童それぞれが使いたい言葉や表現を選んで付け加え、文章を書いていく。

「生かす」段階では、書き上げたものを互いに読み合い、言葉や表現のよさを見つけて伝えたり、内容に対する感想を伝え合ったりする。単元導入で立てた自分の課題と照らし合わせ学習を振り返るとともに、次の小単元で「一番の思い出」を書くときのめあてをもつことができるようにする。

4 言語部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

言語部では「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉に着目し、意味や役割、効果を考え、意識して使おうとすること」であると考えられる。

児童が、自分の思いを表現したり情報を基に自分の考えを形成したりしようとする際に、言葉の意味や効果に着目し(言葉による見方)、比較や類推等の概念的思考を働かせて考え(言葉による考え方)、より適切に判断しようとしている姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」姿である。さらに、「言葉による見方・考え方を働かせたことを振り返り、「言葉のよさ(役割や効果)」を実感することで、言葉への自覚を高めることができる。これらの経験を重ねていくことが、児童の語彙を豊かにし、豊かな言語生活者を育てていくことにつながると思われる。

「書くこと」の学習では、様々な言葉や表現に着目し(言葉による見方)、比較したり類推したりして(言葉による考え方)、自分の思いや伝えたい内容に適切な言葉や表現を選択しようとするのが、「言葉による見方・考え方を働かせる」ことであると考えられる。それぞれの学習過程の中で、どの言葉や表現がより適切なのかを比較し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して最適なものはどれかを考え判断しようとする際に、「言葉による見方・考え方を働かせる」のである。

「言葉による見方」は、知識及び技能の内容の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項から、「語彙」「表現の技法」「文や文章」を取り上げた。「言葉による考え方」は、知識及び技能の内容の(2)情報の扱い方に関する事項の「情報と情報との関係」「情報の整理」や先行研究を参考に概念的思考を設定した。

		低学年	中学年	高学年
言葉による見方	語彙	身近なことを表す語句	様子や行動、気持ちや性格を表す語句	思考に関わる語句
	表現の技法	(比喩・反復などの表現の工夫)	(比喩・反復などの表現の工夫)	比喩・反復などの表現の工夫
	文や文章	主語と述語との関係	主語と述語との関係 修飾と被修飾との関係 指示する語句と接続する語句の役割 段落の役割	語句の係り方や語順 文と文の接続の関係 話や文章の構成や展開 話や文章の種類とその特徴
言葉による考え方	概念的思考			—— 分解 抽象化 具体化 系統化 一般化 ——>
			—— 因果 分類 ——>	
		—— 比較 類推 ——>		

どの言葉や表現がより適切なのかを比較する際には、語句をより理解するための方策「①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化」を使って考える。その際、友達とどのような言葉や表現があるかを出し合ったり、それぞれの言葉や表現からどのような印象を受けるかを話し合ったりすることが欠かせない。他者と協働することにより、「新たな言葉との出会い」や「言葉の意味や役割、効果」「人による感じ方の違い」等に気づき、言葉への理解を広げたり深めたりすることができるのである。学習の中でこれらの経験を重ねることで、児童の言語感覚を耕し、語彙を豊かにしていく。このような学習を継続することが、豊かな言語生活の実現につながる考えた。

言語部では「豊かな言語生活」について、三つの側面から捉えている。

ア：言葉そのものへの興味・関心

言葉を意識し、言葉に関心をもって生活し、言葉に親しんでいる。

- ・言葉の並びやリズム、韻や言い回しのおもしろさや心地よさを楽しんでいる。
- ・言葉遊びや短歌・俳句、伝統的な言語文化などを楽しんでいる。
- ・言葉に出合ったとき、「おもしろいな」「かっこいいな」「すてきな」などの思いをもって生活している。
- ・気になる言葉に出合った際、意味や使い方を調べたり、いつか使ってみようとして書き留めたりしている。
- ・その言葉の仲間が他にもないかと調べたり集めたりしている。

イ：自己内対話

自分の思いを言葉にすることにより意識化し、感性や情緒、思考を活性化したり明確化したりしながら内言を充実させている。

- ・言葉を用いて論理的に思考し、自分の考えを広げたり整理したりしている。
- ・自分の中にある漠然とした思いを言語化することで感情を明確にしたり豊かにしたりしている。
- ・書いたり話したりする際に、自分なりのこだわりをもって言葉や表現を選択し、使おうとしている。

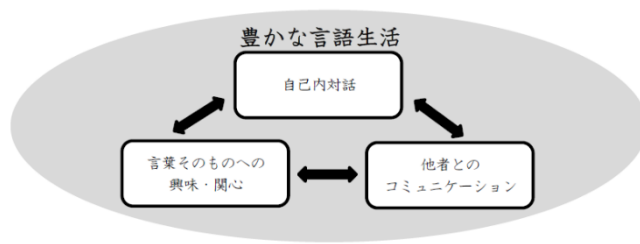
ウ：他者とのコミュニケーション

言葉の働きを意識して、思いや考えを他者とよりよく伝え合おうとしている。

- ・発表や話し合い、交渉などで、考えを伝え合い、理解を深めたり問題を解決したりしている。
- ・他者と関わり合う際に、言葉から相手の思いを理解し、円滑なコミュニケーションを取っている。
- ・言葉には人間関係を構築する働きがあることを意識し、言葉を介して他者と良好な人間関係を築いていこうとしている。

これらの三つの側面は、互いに関連し合っている。「Aという言葉があるんだ。面白いな」という「言葉そのものへの興味・関心」の側面が、「このことを書くときにあのAという言葉を使ってみようかな」という「自己内対話」の側面につながり、「〇〇さんにこのことを伝えるためには、あのAという言葉を使うのはどうかな」という「他者とのコミュニケーション」の側面にもつながる。

このように、それぞれの側面を往還しながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていく。言葉に親しんだり「言葉による見方・考え方」を働かせたりする経験を重ね、児童の語彙を充実させていく学習を継続することが、児童の言語生活の充実につながる。そして、言語生活が充実することで豊かな言語生活者が育っていくのだと考える。



5 研究主題に迫るために

本単元で重点を置きたい「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「様子を表す言葉や表現に着目し、意味や効果を比較して、よりその場の様子が読み手に伝わる言葉や表現を選ぼうとすること」である。

生活の中での経験を想起し、「2年3組〇〇の思い出ブック」の1ページとして書き残すためには、後で読み返したときにその時の様子を生き生きと思い起こすことができたり、読む人に様子がより詳しく伝わったりするように書くことが必要である。

そのときの様子がより詳しく分かる文章にするにはどうしたらよいか考える場面では、オノマトペや比喻、会話や諸感覚による表現などの様子を表す表現を友達と出し合い、その中から自分が使おうと思う表現を選ぶ。その際、「言葉による見方・考え方」を働かせ、「これとこれならどちらがよいか、他にもあるのかな、もう少しよいものもあるかもしれない」と言葉に立ち止まって考える。「言葉による見方・考え方」を働かせて言葉を選んだことを振り返ることで、「様子を詳しく表す表現を使うとより詳しく伝わるのだ」という言葉への自覚を高めることができる。

本単元で「言葉による見方・考え方を働かせた」経験や高まった言葉への自覚が、次の小単元や日々の日記を

書く際に生きてくる。これらの経験を重ねていくことで、豊かな言語生活者を育成することができる。研究主題に迫るために、【出合う】【親しむ】【生かす】の三段階の単元構成とし、学習活動や手立てを工夫する。

(1)児童が(本単元において)身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

児童一人一人が「こんなふうに書きたい」「～したい」という思いをもって学習に取り組むことができるようにする。

- ①【出合う】：思い出ブックに入れたい日記を選び学習課題を設定する。学習計画や単元名を考え、見通しをもつ。出合う段階では、児童の「その時の様子がより詳しく分かるようにしたい」という思いを高めるようにする。年間で書き溜めている「〇〇の『思い出ブック』」の2月のページを作成することを伝え、それまでに書いた日記を読み返したり児童とやり取りしたりしながらどこをよりよくしたいか(詳しく・面白く・分かりやすく など)を自覚できるようにしていく。
- 第1時では、2月に書いた日記を読み返し、どの思い出を残したいかを考える。それぞれに日記を読み返し、この日記のここをよりよくしたい(不足していることを書き足したい、この言葉を使いたい など)という思いが高まったところで、単元の学習課題を設定し、大まかな学習計画を立てる。その際、児童一人一人の学習課題も設定するようにする。これらの活動を通して、児童が本単元の学習で身に付けたい力を自覚し、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができる考えた。

②学習課題の設定と振り返りを継続する。

単元の学習課題(個人)の設定と併せて、児童が「～したい」という思いをもって学習に取り組むことができるようにするために、毎時間の始めに児童とやり取りしながらその時間の学習課題を考えたり、終わりに学習を振り返り次の時間にやりたいことを考えたりする時間を設ける。課題の設定と振り返りを継続していくことで、自己調整しながら学習を進める力を伸ばしていくことができると考えた。

単元終了時には、個人の学習課題についての振り返りとともに、「書いたものから様子が思い浮かぶか」「友達の書いた文章を読んで」の観点で学習の振り返りを行う。振り返りを行うことで、どのような言葉に着目して「言葉による見方・考え方を働かせる」と文章がより「詳しく・分かりやすく・伝わりやすく」書けるということを自覚し、「次は～してみたい」という思いを高めて今後の学習や日常生活の中で活用していくことを目指す。

(2)学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。

友達との対話を通して、様子を表す言葉や言葉の使い方への気付きを新たにし、「言葉による見方・考え方を働かせてより適切な言葉や表現を選ぼうとすることができるようにする。

- ①【親しむ】：読み返して、そのときの様子がより詳しく伝わるようにぴったりな言葉を加えて文章を書く。親しむ段階では、どこにどのような言葉や表現を入れると出来事の様子がよりよく伝わるのかを、様々な言葉や表現を比較して考えていく。
- 第2・3時では、選んだ日記を読み返し、どこにどのような表現を付け加えると様子が詳しくなるのかを考える。自分で考えた後に友達からアドバイスを貰う。その中で、自分では思い付かなかった新たな観点や言葉・表現に出会うことができる。その後、語句をより理解するための方策を使い、全体でそれぞれの言葉や表現からどのような感じを受けるか、その言葉や表現が無かったらどうなるか、別の言葉で表すとしたらどんな言葉があるのか等を話し合う。その中で、様子を表す言葉や表現を新たに知ったり、言葉や表現の意味や効果を意識して自分が使いたい言葉や表現を選んだりできるようにしていく。

②【生かす】：学習を振り返り、様子を詳しく伝える言葉や表現の効果について考える。

生かす段階では、互いの文章を読み合い感想を伝え合う場を設け、読み手として言葉と向き合うことができるようにする。友達はどのようなことを伝えたいのかと、文章に書かれている言葉や表現を基に様子を想像しながら読むことで、言葉の意味や使い方、効果を意識したり書き手はどのようなことを伝えたかったのだろうかと考えたりしていく。

単元全体の振り返りでは、文章を書いたときのことや読んだときのことを想起して気付いたことを出し合う。児童は、気付きを共有する中で「一つのことでも、様々な言葉や表現で様子を表すことができるのだ」「ぴったりの言葉を選ぶと、自分の伝えたいことが相手に伝わりやすくなるのだ」等、言葉の役割や効果への気付きを新たにする。単元の中で、書き手と読み手の両方の立場を経験したことが、「様子を詳しく表す言葉を使うとより詳しく伝わるのだ」という言葉への自覚の高まりにつながると考える。

「この表現を言葉ノートに書いておきたい」「〇〇さんが使っていた様子を表す表現を、自分も使ってみよう」「今後も、様子を表す言葉を使って文を書きたい」等の思いが高まることを期待する。

③獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元の学習を日常生活に生かしている場面を具体的に想定し、獲得した言葉の力を活用することができるかどうかを見取り、今後の指導に反映することができるようにする。

【生かす】：単元終了後の日常生活において様子を表す言葉を意識して生活しようとする。

言語部で目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使いよりよく人と関わったりしながら生活することである。

本単元で児童は、「様子を表す言葉を使うと分かりやすく書ける」ことや、思いを言語化する際に、「言葉による見方・考え方」を働かせ、「他にもあるのかな、もう少しよいものもあるかもしれない、これとこれならどちらがよいかな」と言葉に立ち止まって考え選ぶとよい」ことを学ぶ。

単元終了後には、以下の四つの姿が現れることを期待する。

ア：新しい語句や表現に興味をもち、その意味や使い方を知ろうとしたり「ことばノート」に書き留めたりしている。

イ：自分が表したいことに合った語句や表現かどうか考えながら日記やその他の文章を書いている。

ウ：語句の意味や使い方に気を付け、場面の様子を想像しながら読んでいる。

エ：自分の言葉が相手に伝わるかどうか考え、言葉を選んだり付け加えたりして書いたり話したりしている。

今後の学習や日常生活の中でこれらの姿が現れることが、本単元で獲得した言葉の力を活用していることである。これらの経験を重ね、語彙を豊かにしていくことが、児童の言語生活を豊かにしていくことであると考える。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
出 合 う	1	<p>「2月のできごと」の題材を選び、学習の見通しをもつ。</p> <p>①「思い出ブック」を作る目的を確かめる。</p> <p>②2月の日記を読み返し、自分の「思い出ブック」に載せたいものを選ぶ。</p> <p>③今月はどんな文章を書きたいか考え、個別の学習課題を設定する。</p> <p>④単元の学習課題を設定し、学習の計画を立てる。</p>	<p>○個別の課題を発表し合う中で単元の学習課題を考えることができるようにする。</p> <p>○読み返したときに様子が思い出せたり、読み手に様子が伝わったりするとよいことを確かめる。</p>	
親 し む	2	<p>日記を読み返し、詳しくするために書き加えるとよい内容や表現を考える。</p> <p>①本時のめあてを考える。</p> <p>②詳しくできそうなところを見付け、サイドラインを引いたり付け加える言葉や表現を考えたりする。</p> <p>③友達の日記を読んで、詳しくするためのアドバイスをし合う。</p> <p>④アドバイスを基に、付け加える内容を考える。</p> <p>⑤学習を振り返り、次の時間に詳しくしたい部分を明らかにする。</p>	<p>○「2年3組作文のこつ」を見ながら、様子を詳しく書くための観点を想起させる。</p> <p>○5W1Hに関する付け足を考え、日記に書き込むようにする。</p> <p>○「どんなふう」「どれくらい」の付箋については、次時に付け加える言葉や表現を考えることを確かめる。</p>	<p>◆「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。〔思・判・表①〕</p> <p>★サイドラインや書き込みの記述</p> <p>・様子を詳しく表すことのできる箇所を見付けたり、言葉や表現を追加したり修正したりしているかの確認。</p>

3 (本時)	<p>様子を詳しく表現するために、書き加える言葉や表現を考える。</p> <p>①前時の学習を振り返り、本時のめあて(個人の課題)を考える。</p> <p>②様子を詳しく表す言葉や表現を想起し付箋に書く。</p> <p>③友達の文章にふさわしい表現を考え、アドバイスし合う。</p> <p>④クラス全体で表現や効果について考える。</p> <p>⑤学習を振り返り、自分の文章にぴったりだと思う言葉や表現を選ぶ。</p>	<p>○様子を表す言葉や表現を付箋紙に書き出す際には、必要に応じて友達と相談することができるようにする。</p> <p>○語句を理解するための方策を使い、言葉や表現の効果について考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>【語句を理解するための方策】 その語句の ①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辨書的な意味 ⑤動作化</p> </div> <p>○よりぴったりに表すことができる言葉や表現を選ぶよう助言する。</p>	<p>★付箋紙の記述や追加・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子を詳しく表す言葉や表現を書いたり、追加したり、修正したりしているかの確認。
4	<p>詳しく想起できる文章にすることを意識し、言葉や表現を書き加えながら文章を書く。</p> <p>①前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。</p> <p>②前時までには貰ったアドバイスを振り返りながら、様子を詳しくする言葉や表現を付け加えて文章を書く。</p> <p>③書き上がったものを読み返したり読み合ったりする。</p>	<p>○読み返すと、場面の様子を詳しく思い出すことができる文章を書くことを確認する。</p> <p>○書いている途中で困ったときは、友達に相談してよいことを伝える。</p> <p>○書き上がった児童には、自分の文章を読み返し間違いがあれば修正するよう伝える。</p> <p>○読み合う際には、表現や言葉に着目して感想を伝え合うようにすることを確認する。</p>	<p>◆粘り強く、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって書こうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>★書き上げた文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのときの様子が詳しく想起できるように書き加えてあるかの確認。
生かす	<p>文章を読み合って感想を伝え合い、互いの文章のよさを見付ける。</p> <p>①清書する。</p> <p>②読み合って感想を伝え合う。</p> <p>③様子を詳しく表す言葉や表現についての気づきを出し合い、単元の学習を振り返る。</p>	<p>○様子を詳しくする表現と、語句をより理解するための方策を確認し、今後の学習でも使えるようにする。</p>	<p>◆言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知・技①〕</p> <p>★振り返りの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の課題に対する振り返りと、様子を詳しくする言葉や表現への気づきがあるかの確認。
単元後	<p>ア：新しい語句や表現に興味をもち、その意味や使い方を知ろうとしたり「ことばノート」に書き留めたりしている。</p> <p>イ：自分が表したいことに合った語句や表現かどうか考えながら日記やその他の文章を書いている。</p> <p>ウ：語句の意味や使い方に気を付け、場面の様子を想像しながら読んでいる。</p> <p>エ：自分の言葉が相手に伝わるかどうか考え、言葉を選んだり付け加えたりして書いたり話したりしている。</p>		

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

題材に応じた様子を詳しく表す言葉や表現について考え、その効果に気付くことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○前時の振り返りを想起し、自分が詳しくしたいと思っている部分を確認する。	
ようすを くわしくする 言ばやひょうげんを 考えよう (仮)		
2 そのときの様子を表すためにどんな言葉や表現を使ったらよいかを考える。 (1)個人で付箋紙に書き出す。 (2)友達の書いた文章を読み、様子を表す言葉や表現をアドバイスし合う。	<div style="background-color: yellow; padding: 5px; text-align: center;">言葉による見方・考え方を働かせている場面(1)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○「どんなふうに・どのくらい」が分かるような言葉や表現を考えるとよいことを伝える。 ○黄色の付箋紙1枚に1つの言葉や表現を書くようにさせる。 ○青色の付箋に、付け加えるとよいと思う言葉や表現を書き、友達に伝えるように促す。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈本時で考えさせたい様子を詳しくする表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音 ○比喩 ～みたい・～のような ○オノマトペ ○程度 ～ぐらい・～ほど </div>
3 様子を詳しく表す言葉や表現の効果をクラス全体で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○アドバイスの様子を見ながら、比喩やオノマトペなどにつながりそうなものを取り上げる。 ○語句を理解するための方策を使い、言葉の意味や表現の効果を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【語句を理解するための方策】 その語句の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">①有無 <li style="width: 50%;">②言い換え <li style="width: 50%;">③経験の想起 <li style="width: 50%;">④辞書的な意味 <li style="width: 50%;">⑤動作化 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。〔思・判・表①〕 ★付箋紙の記述や追加・修正 ・様子を詳しく表す言葉や表現を書いたり、追加したり、修正したりしているかの確認。
4 個人で付箋紙を読み返し、付け加えたいと思う言葉や表現を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ○全て使うのではなく、自分がよりぴったりだと思える言葉や表現を選ぶよう助言する。 ○さらによい言葉や表現を思い付いた場合には、付箋紙を書き足してもよいことを伝える。 <div style="background-color: yellow; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">言葉による見方・考え方を働かせている場面(2)</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u> 様子を詳しく表すための言葉や表現のよいところを、友達に具体的に伝えるように助言する。 ○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</u> 「語句をより理解するための方策」を使い、言葉や表現を比べてみるよう助言する。 </div>
5 本時の学習を振り返る。	○振り返りの記述とともに、気になった言葉や表現を「ことばノート」に書き留めてもよいことを伝える。	

ねらい：様子を詳しく伝えるためには、どのような言葉や表現を使って書くことができるのかを考え、ぴったりの言葉や表現を選んで書こうとする。

下学年分科会 単元名「ようすをくわしく書こう(仮)」(5時間) 単元構造

光村図書	1学期				2学期				3学期			
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間計画	「たのしかったことを書こう」(1h×4)				「みんなの『思い出アルバム』をつくらう」27h 「ようすをくわしく書こう①」(1h×3)				「文しょうを読みかえそう」(3h)	「ようすをくわしく書こう②」(5h×2)		「一番の思い出をえらんで書こう」(4h)
常時活動	日記											
書く	つづけてみよう		かんざつ名人				おもちゃの作り方をせつめいしよう			お話のさくしゃになろう	見たこと、かんじたこと	すてきなところをつたえよう
話す聞く				あったらいいなこんなもの				そうだんにのってください			楽しかったよ、二年生	
読む	ふきのとう	たんぼぼのちえ	スイミー	ミリーのすてきなぼうし	雨のうた 馬のおもちゃの作り方	お手紙	どうぶつ園のじゅうい せかいーの話	わたしはおねえさん	ねこのこ/おのはなびら/はなたいこば おにごっこ			スーホの白い馬
着目した表現	と～が言いました。 すっきり ささやく ふんばる	なぜ～でしょう。 それは、～からです。 ～のです。 このように らっかさんのように	星みたいな ビー玉ぐらい ～気がつきました。 はじめて知りました。 まっ黒 からす貝みたくに にじ色のゼリーのような		とんとん びちびち つんつん しとしと まず、つぎに、それから、さ いごに、これで ～が、～するところです。	しあわせ ふしあわせ かなしい こしをおろす あきあきする 言う たずねる 見る・のぞく 親友 親愛なる	見回りがおわるころ お昼前 お昼すぎ 夕方 これで ようやく かならず さぐる ～というのです。	りっぱ えらい けさも びかびかとかがやくように コスモスがみんなて歌を歌 っているよう あこがれる なきたいのかおこりたいの かわからない	うつくしい、きれいな 大きい、小さい ～など～のように ～たり～たり また、ほかに、ところが、こ のように			広い広い 雪のように白く はねおきる とぶように むちゅうで かつとなる カタカタ、カタカタと 走って、走って、走りつづけ て

出会う

親しむ

生かす

学習活動

1 推敲 情報の収集、内容の検討
「2月の出来事」の題材を選び、学習の見通しをもつ。

①「思い出ブック」を作る目的を確かめる。
②2月の日記を読み返し、自分の「思い出ブック」に載せたいものを選ぶ。
③今月はどんな文章を書きたいか考え、個別の学習課題を設定する。
④単元の学習課題を設定し、学習の計画を立てる。

2 考えの形成、記述
日記を読み返し、詳しくするために書き加えらるとよい内容や表現を考える。

①本時のめあてを考える。
②詳しくできそうなところを見付け、サイドラインを引いたり付け加える言葉や表現を考えたりする。
③友達の日記を読んで、詳しくするためのアドバイスをし合う。
④アドバイスを基に、付け加える内容を考える。
⑤学習を振り返り、次の時間に詳しくしたい部分を明らかにする。

3 考えの形成、記述(本時)
様子を詳しく表現するために、書き加える言葉や表現を考える。

①前時の学習を振り返り、本時のめあて(個人の課題)を考える。
②様子を詳しく表すことができる言葉や表現を想起し付箋紙に書く。
③友達の文章にふさわしい表現を考え、アドバイスし合う。
④クラス全体で表現や効果について考える。
⑤学習を振り返り、自分の文章に最適だと思う言葉や表現を選ぶ。

4 考えの形成、記述 推敲
詳しく想起できる文章にすることを意識し、言葉や表現を書き加えながら文章を書く。

①前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。
②前時までに貰ったアドバイスを振り返りながら、様子を詳しくする言葉や表現を付け加えて文章を書く。
③書き上がったものを読み返したり読み合ったりする。

5 共有、学習の振り返り
文章を読み合って感想を伝え合い、互いの文章のよさを見付ける。

①清書する。
②読み合って感想を伝え合う。
③様子を詳しく表す言葉や表現についての気付きを出し合い、単元の学習を振り返る。

児童の意識

○「思い出ブック」は、読んだら、そのときにワープした気分になるような本にするんだね。
○そのために様子を詳しく書く必要があった。
○完成したら読み合うから、そのことをやっていない人にも、感じたことが分かるようにしたいんだね。
○2月のページには、一番面白かったことを載せたいな。
○気に入った文や言葉があるものはどれかな。
○ぼくは、もう少し文章を長くしたいな。
○私は、驚いたときの様子を詳しくしたいな。
○「～みたい」を使ってみたいな。

○「だれと」と「どう思ったか」を入れられそう。
○「～みたいな」や「～ような」が無いから増やしてみようかな。
○詳しくできそうなところが見付からないよ。誰かにアドバイスをもらいたいな。
○「どうなったか」を書いたらいいよ。
○風の音や霜柱の様子が書けそうだよ。
○「どんなふうに」「どれくらい」を聞いてみよう。
○どれくらい驚いたのかな。
○どんなふうに食べていたの。
○付け足したら、結構詳しくなってきたよ。
○次は、どんなふうに「笑った」のかを考えよう。
○アドバイスをもらった「きれいでした」のところを詳しくしてみようかな。

○ぼくは「笑いました」を詳しくするよ。
○私は「どんなふうにきれいだっただか」を考えるつもり。
○「宝石みたいでした」「きらきらしてました」かな。
○すみれちゃんみたいに「びかびかと輝いています」はどう。
○「にこにこ」「わっはっは」「くすっ」と「大きな声で」「涙が出るくらい」、友達に聞いたら詳しくする表現がたくさん集まった。どれがいいかな。
○「にこにこ」は、いいことやうれしいことがあった、「くすっ」とは、ちょっといいことがあった、「わっはっは」は、とても楽しいって感じがするよ。
○「〇〇くんが、みかんマンになった」にぴったりなのはどれかなあ。「にこにこ」より「わっはっは」がいいかな。
○「宝石みたい」って、かっこいい言い方だな。「ことばカード」に書いておこう。

○今回はこれとこれを使って書いてみよう。
○前は「わっはっは」がいいと思ったけれど、「わっはっはと笑いました。」の後に「笑すぎてお腹がいたくなりました。」を付けようかな。とても面白かったことが伝わるには…
○霜柱の様子を表すために「宝石みたい」と「きらきらと輝いています」を両方使うと、きれいだっただけがもっとよく伝わる気がする。「春雨みたい」は、やめておこう。
○日記のときと比べて、随分詳しくなった。すてきな文章になって嬉しいな。
○様子がよく分かるかどうか、誰かに読んでもらいたいな。

○「怪獣みたいな」っていう表現がいいね。
○この表現いいな。「ことばノート」に書いておこう。
○最初に決めためあて(学習課題)に気を付けて書くことができたよ。
○様子を詳しくする言葉や表現を使って書くと、そのときのことがもっとよく伝わる文章になるね。
○たくさん迷ったけれど、〇〇さんが「分かりやすい」って言ってくれたから、ぴったりなのはどちらの表現か考えてよかったな。
○「どれくらい」や「どんなふうに」を書くとき様子が詳しくなるんだね。
○日記を書くときにも、「～みたい」を使ってみようかな。

知識・技能

(1) ア 言葉の働き
○場面の様子を詳しく表すための様々な言葉や表現があることに気付く。

言葉による見方・考え方を働かせる
○様子を表す言葉や表現に着目し、意味や効果を比較して、よりその場の様子が読み手に伝わる言葉や表現を選ぼうとすること。

<語句をより理解するための方策>
その語句の ①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化

<様子を詳しくする表現>
①思ったこと ②諸感覚で感じたこと ③順序 ④会話 ⑤比喩 ⑥オノマトペ ⑦程度 ⑧慣用表現 (⑦⑧に着目する児童が現れることも想定)

自己調整力

○自分の書いた文章のよいところやもっとよくしたいところを見付けて、個別の課題を設定する。

○自分の書いた文章を振り返り、さらに詳しくできそうなところを見付ける。
○次時に付け加えて様子を詳しくしたい部分を見付ける。

○考えたり出し合ったりしたものの中から、自分が使ってみようかな言葉や表現を見付ける。

○自分が書きたいことに合わせて、様子を表す表現を確かめながら書いたり、読み返したりする。

○自分の文章のよいところを見付ける。
○個別の課題を振り返り、これからどんな文章を書きたいか考える。

他者との協働

○様子を詳しく想起できる文章にすることを、どこにどのような内容や表現を付け加えるとよいか話し合う。

○付箋に書いた様子を詳しくする表現を出し合う。
○表現から受ける感じや表現の効果を話し合う。

○必要に応じて友達に相談する。

○友達の文章を読み、感想や文章のよいところを伝える。
○様子を詳しくするための表現の効果を話し合う。

評価

思・判・表 B(1)ウ
「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。

主体的
粘り強く、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって書こうとしている。

知・技(1)ア
言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。

豊かな言語生活

エ ウ イ ア
自分の言葉が相手に伝わるかどうか考え、言葉を選んだり付け加えたりして書いたり話したりしている。
新語句や表現に興味を持ち、その意味や使い方を知らうとしたり書き留めたりしている。
自分が表したいことと合った語句や表現かどうかを考えながら日記やその他の文章を書いている。